

〈ゼミ活動報告〉

## 渋沢栄一杯経済史・経営史 ディベートリーグの取り組み

石井里枝

本稿では、経営学部石井里枝ゼミナールの活動報告として、2011年度から毎年参加（2011年度は関西オープン戦のみの参加）してきた「渋沢栄一杯経済史・経営史ディベートリーグ」への取り組みについて報告することにした。

はじめに、本年度の活動について報告する前に、渋沢杯ディベートリーグの概要についてお話しすることにしよう。

渋沢栄一杯経済史・経営史ディベートリーグは、2003年からスタートし、今年で第13回目をむかえた、経済史・経営史分野のゼミを中心におこなわれているゼミ対抗の学生ディベートリーグである。「渋沢栄一杯経済史・経営史ディベートリーグ」という名称は、2008年から公益財団法人渋沢栄一記念財団の助成をいただき、新たな（優勝）トロフィーを設けたことにちなんでいる。

参加校は、都内を中心に、北海道から関西まで、9大学10ゼミが参加している。以下、参加ゼミナールについて記すことにしよう。

北星学園大学 勝村務ゼミ

高崎経済大学 加藤健太ゼミ

大東文化大学 中村宗悦ゼミ

大東文化大学 石井寿美世ゼミ

日本大学 岸田真ゼミ  
文京学院大学 島田昌和ゼミ  
慶應義塾大学 牛島利明ゼミ  
専修大学 永江雅和ゼミ  
愛知大学 石井里枝ゼミ  
関西学院大学 寺地孝之ゼミ

なお、石井里枝ゼミは参加していないものの、2年生大会として「フレッシュリーグ」が11月に開かれており（本年は、11月14日に文京学院大学において開催）、こちらには上記のゼミのなかから大東文化大学石井（寿）ゼミ・中村ゼミ、文京学院大学島田ゼミ、日本大学岸田ゼミ、専修大学永江ゼミ、さらに獨協大学市原博ゼミの6ゼミが参加している。

本ディベート・リーグでは、討論のテーマ（議題）として経済や経営などの現代的な課題を中心に扱う統一テーマのもとで、各ゼミが肯定・否定の計2試合を他大学ゼミと対戦し、大学若手教員や大学院生を中心に構成するジャッジ団が勝敗を判定し、優勝校を選定している。高いレベルのディスカッションを展開しているといえる。また、本ディベート・リーグでは、学生が与えられた勉強をこなすというのではなく、ディベートをつうじて、議題に対する問題意識をもち、論理的思考力を身につける事も大きな目的としている。また、本ディベート・リーグでは、試合1週間前後にレジュメ交換日が設定され（今年は9月25日）、その期日までにレジュメを作成して相手チームと交換することになっている。また、各試合のジャッジは、ここで交換されたレジュメに予め目をとおしてから試合に臨むことになっている。このレジュメの出来もジャッジの評価に反映されるため、事前に勉強をしておく必要がある。さらに、配点（評価点）にはチームワーク点が含まれており、チーム全員で議論の内容を理解することが大切になる。なお、簡単にディベートの流れについて説明すると、次の

ようになる。

**【ディベートの流れ】**

①立論発表：肯定→否定 各6分

**【休憩1分】**

②反対尋問：肯定→否定 各5分

- ・反対尋問は Yes/No もしくは短い答えができる質問を行う
- ・質問の主導権は質問側にあり、返答が長い場合は遮断する権利を持つ

**【休憩3分】** 反駁レジュメを配布

③反駁：肯定→否定 各5分

**【休憩3分】**

④フリーディスカッション 20分

- ・否定側からの発言で開始→10分経過時にベルを鳴らし強制中断し、肯定からの発言で後半開始
- ・肯定が質問する状況であっても強制中断  
(肯定側は同じ質問を続けたければ続けてもかまわない)

**【休憩3分】**

⑤最終弁論：否定→肯定 各5分

さらに、採点項目について表示すると、次のようになる。

1. 立論：形式：内容：プレゼン
2. 反対尋問
3. 反駁
4. フリーディスカッション
5. 最終弁論
6. 独創性
7. チームワーク

## 8. 総合力

このように、ディベートをつうじて得られる力としては、論理的思考力、プレゼンテーション能力、ディスカッション能力、そしてチームワーク力などさまざまなものがあげられる。

さて、本年度の石井ゼミナールにおける活動報告について話を戻すことにしよう。本ディベート・リーグでは、5月にテーマ発表、組み合わせ会議が開かれ、その後夏季休暇を中心に本大会での対戦校以外の大学と対戦をおこない、10月の本大会に臨む、ということになる。本年度においては、5月9日(土)に文京学院大学（東京都文京区）において組み合わせ抽選会がおこなわれた。愛知大学のほか、北星学園大学、関西学院大学の3ゼミは、抽選会場である文京学院大学からスカイプで中継をつなぎ、中継会場もふくめて全国4会場において対戦校の抽選がおこなわれ、本年度のディベート・リーグのテーマが同時に確認された。ここにおいて、石井ゼミの対戦チームは、次のように確定した。

愛知大学石井ゼミ肯定班      対   専修大学永江ゼミ否定班  
文京学院大学島田ゼミ肯定班   対   愛知大学石井ゼミ否定班

また、テーマについて、次のようなテーマが発表された

「株主重視のコーポレート・ガバナンス改革を推進することは、日本経済にとってプラスである。(肯定側)」

このテーマに沿って、肯定班・否定班にわかれて10月の本大会にむけて、準備がおこなわれることになった。肯定班、否定班のメンバー（石井ゼミ3年生）について記すと、次のようになる。

## 渋沢栄一杯経済史・経営史ディベートリーグの取り組み

肯定班：下村涼馬・澤田史佑・西岡良侑・小畑貴也・駒田卓也・高村  
涼介・有川諒・二宮新理・大山竜平・本部晃己・林幸佑

否定班：横山なつ美・長坂有紗・紀藤聡礼・千葉笑巳・治田万由子・  
杉山凜・田中聖人・関風紗・岡田朋樹・長田卓弥・竹内泰志

まず、ディベートのテーマであるコーポレート・ガバナンスについての理解からはじまり、過去における試合の様子を録画した映像をみてディベートの流れをつかむ作業、レジュメ作成などをおこない、春学期中に紅白戦（ゼミ内での模擬ディベート）も数回おこなってディベート・リーグに備えた。最初は「ディベートって何だろう」といった状態のゼミ生も多かったようであるが、徐々にコツをつかみ、慣れてきたようであった。また、教員の立場からみて一番嬉しかったこととしては、ディベートの準備をつうじて、たんに知識を得るだけでなく、明らかにチームワーク力が高まってきたことがわかったことである。

さて、石井ゼミでは今年、10月4日(日)に専修大学生田キャンパスにおいて開催された本大会にむけて、9月中旬に2度の「オープン戦」とよばれる他流試合に参加した。

まず最初の参加は、9月2日(水)に関西学院大学西宮上ヶ原キャンパスにおいて開催された、「関西オープン戦」への参加である。このオープン戦には、関西学院大学寺地ゼミ、大東文化大学中村ゼミ、そして愛知大学石井ゼミが参加した。このオープン戦には、石井ゼミ4年生から、弦巻俊彦君、松田翔真君、児玉昌也君の3名がジャッジ、TK、司会として参加してくれた。寺地ゼミは3回の優勝経験があり、中村ゼミも上位入賞の常連、ともに強豪ゼミである。石井ゼミは、本年度においては初の他流試合であった。胸を借りるつもりでの参加である。

3ゼミ合同の開会式の様子。緊張感が漂う。



ゼミ長（有川諒君）からの挨拶。



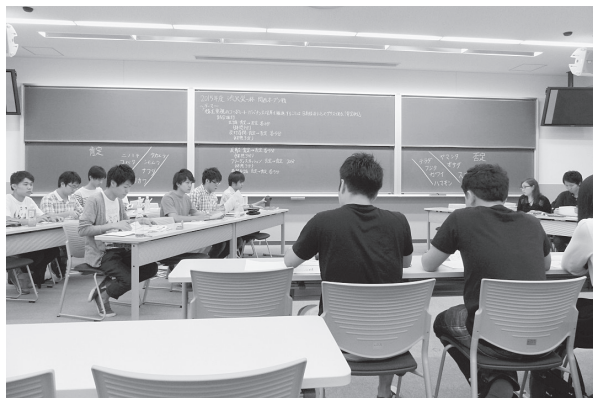
このオープン戦（関西オープン戦）では、各大学肯定班・否定班ともに他の2大学のゼミと対戦し、3会場にわかれて、計6試合がおこなわれた。

## 渋沢栄一杯経済史・経営史ディベートリーグの取り組み

関西学院大学肯定班対愛知大学否定班のディベートの一コマ。



こちらは肯定班。



さすがに、初の公式戦、しかも相手が強豪校であったこともあり、勝ち星をあげることはできなかった。しかし、ゼミ生一人ひとりが多くのことを学び取ったようである。3ゼミ合同の懇親会も大いに盛り上がった。各ゼミからはベスト・ディベーターが選出された。次の写真は、石井ゼミから選ばれた下村涼馬君の挨拶の一コマである。



そして、2回目のオープン戦として、今年は9月8・9・10日（火・水・木）の日程で北海道を訪問し、北星学園大学（札幌市厚別）・勝村ゼミとの試合をおこなった。台風の接近するなかでの日程であったが、幸運なことに飛行機の遅延も特になく、まずまずの天気の中でおこなわれた北海道遠征であった。ディベートに慣れてきたことや、2ゼミによるアットホームな雰囲気の中での試合であったこと、そして何よりも北海道の広大な土地、澄み切った空気にも後押しされて、1週間前の関西オープンの際よりもだいぶリラックスした様子で、試合が進行した。

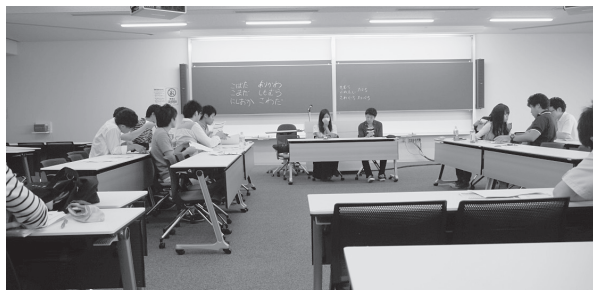
リラックスした様子での、ゼミ長（有川諒君）からの挨拶。





渋沢栄一杯経済史・経営史ディベートリーグの取り組み

肯定班（対、勝村ゼミ否定班）の様子。



試合直前の否定班。



応援のゼミ生たちも、会場を盛り上げる。



このオープン戦では、1勝1分（肯定班△ 否定班○）の結果であり、本戦にむけて白星をあげ、よい調整の機会とすることができた。

このようにして休暇中のオープン戦は終り、秋学期、レジュメ交換（9月25日）から10月4日（日）の本大会に向けて、最後の調整をおこなっていった。

こうして迎えた10月4日（日）の本大会、石井ゼミ生たちは、神奈川県川崎市にある専修大学生田キャンパスに集合した。

開会式直前の様子。少しずつ緊張感が高まる。



各ゼミが呼ばれ、挨拶。愛知大学石井里枝ゼミの順番である。



## 渋沢栄一杯経済史・経営史ディベートルীগの取り組み

開会式後は、試合にむけて、少しの空き時間も無駄にせずに最終調整をおこなった。



こうして迎えた本試合、まずは否定班から、文京学院大学肯定班との対戦である。



次に肯定班。専修大学否定班との対戦。まずは試合前の円陣から。気合いが入る。



次に、試合中の休憩での、話し合いの様子。



このようにして、5月の抽選会以降、ゼミ生が一丸となって取り組んできた、本年度の渋沢杯ディベート・リーグは終了した。

なお、本年度の石井ゼミの勝敗は、1勝1敗（肯定班× 否定班○）であった。そして、肯定班の対戦校であった、専修大学永江ゼミが、唯一の

## 渋沢栄一杯経済史・経営史ディベートリーグの取り組み

2勝校として優勝した。惜しくも2勝することはできなかったが、負けてしまった肯定班の試合も、白熱した議論のもとで、有意義な試合であったといえる。何よりも、ディベート・リーグ開始当初と比べ、ゼミ生一人ひとりが自分の頭で考え、即答する力を身につけてくれたこと、そしてそのうえでの団結力も身につけてくれたことが、大きな収穫であった。

懇親会において、「奨励賞」として、各ゼミからもっとも活躍したディベーターが一人ずつ選出された。愛知大学石井ゼミからは、否定班の横山なつ美さんが選出された。



長いようで短かったこの5カ月間、ゼミ生たちは真剣にディベートに取り組み、多くのことを学んでくれたように思う。ディベート・リーグ終了後の今も、石井ゼミ3年生は、身近な話題でのディベート紅白戦にとりくんでいる。たんに自分たちの調べた知識を発表しあうだけでなく、相手の提示した議題に対して即座に論理的に切りかえす能力、そして説得的に相手に伝える能力、グループ全体で一つの議論を作り上げていく能力。ディベートをつうじて得られた力、そして他大学・他ゼミとの交流をつうじて得られた経験が、のちの生活のなかで何かの役に立つことを願ってやまない。